

ヒト・モノ・カネの一体的な管理の推進

日本水工設計 事業運営支援部課長 門田 文仁 課長 辻 諭

下水道管路施設は、計画的な維持管理へ移行し、計画から、修繕・維持管理まで一体的に管理・運営し、持続可能な下水道管路の管理が求められています。そこで、これからの下水道管路の管理に求められる視点および検討内容について以下に述べます。

①既存情報を一元的に集約・管理し、下水道マネジメントに特化したデータベースの構築。

②中長期(50~100年)の改築・修繕計画シミュレーションを実施し、予算と調整を図りながら下水道管路施設等の予算平準化を自動計算(複数シナリオを実行し、最適化)。

③②で計算された直近5~10年分のデータを抽出し、詳細検討(長寿命化計画等)の実施。

④将来の改築需要に対する職員不足を民間活用で補完するため、改築事業量の整理とアセットマネジメントを取り入れた事業者支援業務についての検討を実施。

⑤将来、人口減少により料金収入が減るため、できるだけ早い概成の達成とダウンサイジングに向けた方向性の検討。さらには、自治体の負担軽減を目指すため、広域連携およびPPP等の検討。

これらの一連の業務展開を効率的かつ計画的に推進していくため、当社では、情報のデータベース化、計画の見える化、指標による事業成果の評価を進めるとともに、平成26年1月に発行されたIS055000シリーズをもとに、作業を後押しするシステム構築を含めたアセットマネジメントの標準化(体系化)にも取り組んでおり、これらの業務を支援・執行できる体制づくりを進めています。(当社では、アセットマネジメント支援ツール:AssetMan

®)を活用して自治体の支援を実施しています)

さらに、今後は管路の包括民間委託も増えてくることが予想されます。計画的な維持管理のためには、調査結果を適切に判断し、速やかな展開が求められるため、維持管理会社との異業種連携等も進めていきたいと考えています。

アセットマネジメント計画策定の基本プロセス

